

阿武隈山地の植生

阿武隈山地は太平洋型の気候に支配されている。そのため、生育する植物も福島県の他の地域のものとは明確に区別され、全体としてモミ・イヌブナ林区区となっている。すなわち、阿武隈山地の標高600~700m以下ではイヌブナが、それ以上ではブナが気候的な極相林をつくっている。しかも、ブナ林は林床にスズタケを伴う型で、奥羽山地以西のチシ

マザサを繁茂するタイプのものとはまったく別のものである。なお、モミ林は谷すじなどの急傾斜地に成立しており、気候的なものというより地形的な要因の影響を強く受けているものであると考えられている。

しかし、阿武隈山地を特徴づけるこのような森林も、今では断片的で貧弱なものしか残っていない。これに代わって山地の大部分をおおっているのは、標高の低いところではコナラ、高いところではミズナラの優占するかつての薪炭林である。

